

(7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善の動きがみられる。

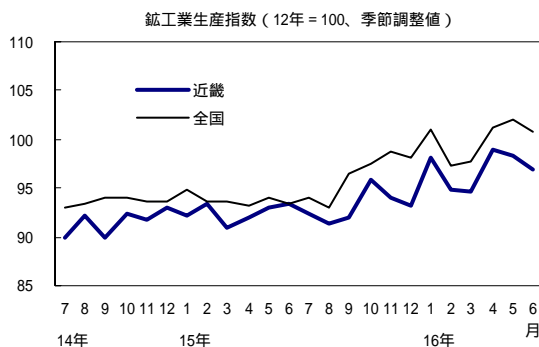
前回調査からの主要変更点

| | 前回 (平成 16 年 5 月) | 今回 (平成 16 年 8 月) | |
|------|-----------------------------|-------------------------|--|
| 景況判断 | 持ち直している | 緩やかに回復している | |
| 雇用情勢 | 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている | 依然として厳しい状況だが、改善の動きがみられる | |

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

一般機械は、半導体製造装置やフラットパネル・ディスプレイ製造装置が引き続き好調であり、機械プレスも増加したことから、3四半期連続で増加している。化学は、化粧品や医薬品、合成洗剤が減少したため、3四半期ぶりに減少している。電気機械は、電気マッサージ器具などが増えたことから5四半期連続で増加している。食料品・たばこは、即席めんやたばこ、清涼飲料は増加したが、酒類が減少しており、期を通じてみるとおおむね横ばいとなっている。電子部品・デバイスは、家電関連の半導体などが減少したため、5四半期ぶりに減少している。



(備考) 平成 16 年 6 月の近畿は速報値。

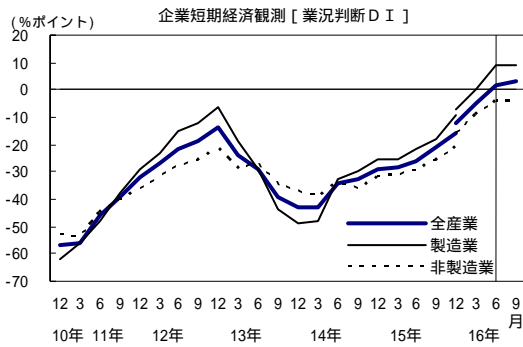
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

| | 付加価値 ウェイト | 生産 | | 出荷 | 在庫 |
|-----------|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 1~3 月期 | 4~6 月期 | 4~6 月期 | 4~6 月期 |
| 一般機械 | 15.0 | 6.6 | 5.0 | 5.5 | 5.3 |
| 化学 | 12.8 | 6.9 | 3.7 | 2.8 | 1.2 |
| 電気機械 | 10.1 | 1.0 | 3.6 | 3.8 | 5.0 |
| 食料品・たばこ | 8.1 | 1.2 | 0.9 | 0.3 | 16.4 |
| 電子部品・デバイス | 7.9 | 5.9 | 1.6 | 2.1 | 19.7 |
| 鉱工業 | 100.0 | 1.6 | 2.3 | 2.7 | 3.0 |

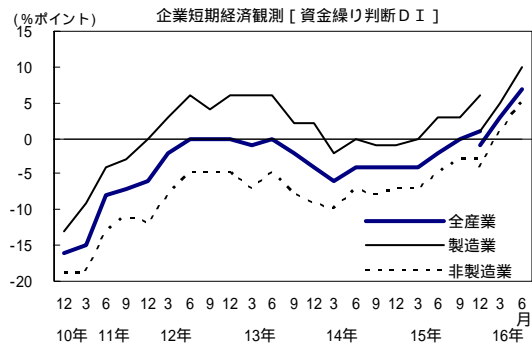
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 4~6月期は速報値。

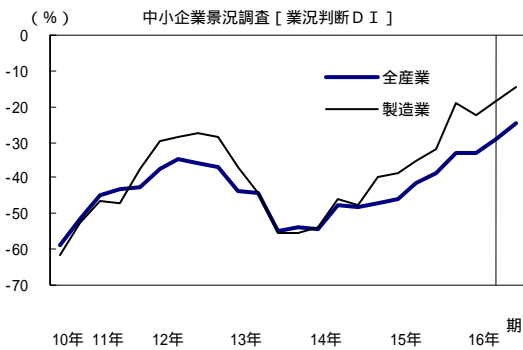
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年9月は予測。
 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「梅雨明けが例年より非常に早く、週末の天気が安定していたことから、夏物が順調であり、店頭品の欠品に伴うスポットの納品依頼が急増している(その他非製造業[衣服卸])」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

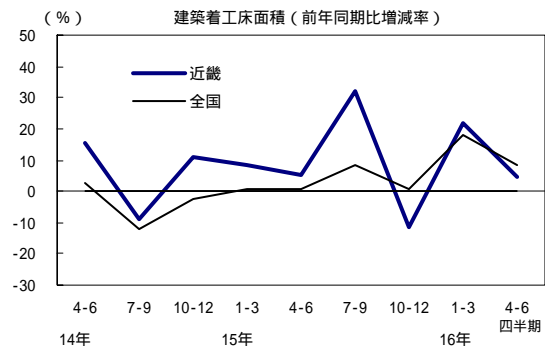
(3) 16年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

| | 15年度実績 | 16年度計画 |
|------|------------|-----------|
| 全産業 | 3.2(1.6) | 7.1(3.2) |
| 製造業 | 13.4(1.7) | 14.6(7.1) |
| 非製造業 | 3.4(1.5) | 1.5(0.0) |

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

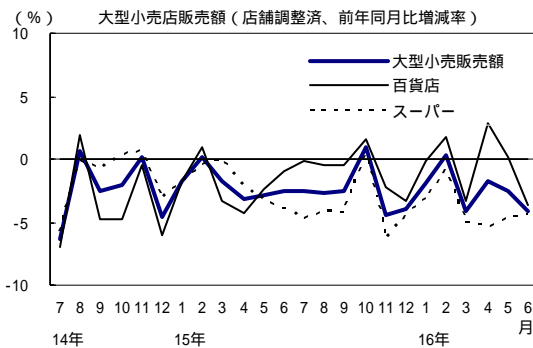
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は閉店セールの影響があり、前年を上回った。5月は週末に雨が多く、ヤング既製服等が全般的に不調だったものの、化粧品が好調であり、わずかながら前年を上回った。6月は中元ギフトの早期受注の広がり等により飲食料品が好調だった以外は、クリアランスセールが7月にずれ込んだ影響によって、ほとんどの商品がマイナスとなり、四半期でも前年をわずかに下回った。なお、日本百貨店協会によると、大阪地区の7月の売上高は、前年同月比で3.5%減となっている。

スーパーは、5月に母の日ギフトで一部動きがみられたものの、消費税総額表示による心理的影響や野菜の価格低下、牛肉・鶏肉の不振などにより、昨年11月以降8か月連続で前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

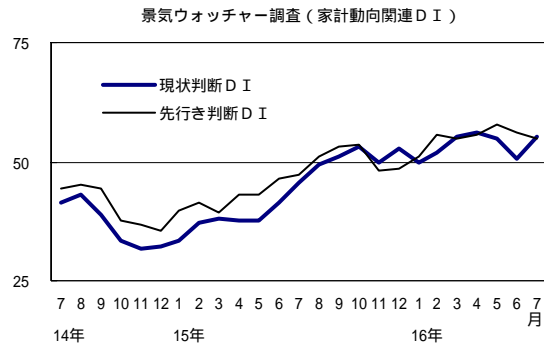
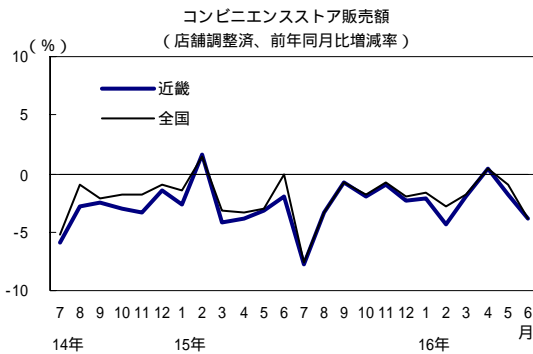
「期待したクリアランスも1週目で息切れ状態となっている。価格を下げても販売量が増えず、全体の売上を引き下げている傾向が続いており、高額品の動きにも陰りがみられる(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

| | 15年7-9月 | 10-12月 | 16年1-3月 | 4-6月 |
|----------|---------|--------|---------|------|
| 大型小売店 | 2.6 | 2.7 | 2.0 | 2.8 |
| 百貨店 | 0.3 | 1.7 | 0.8 | 0.2 |
| スーパー | 4.4 | 3.6 | 3.0 | 4.4 |
| コンビニ | 4.1 | 1.8 | 2.8 | 1.8 |
| 景気ウォッチャー | 48.6 | 51.9 | 52.4 | 53.9 |

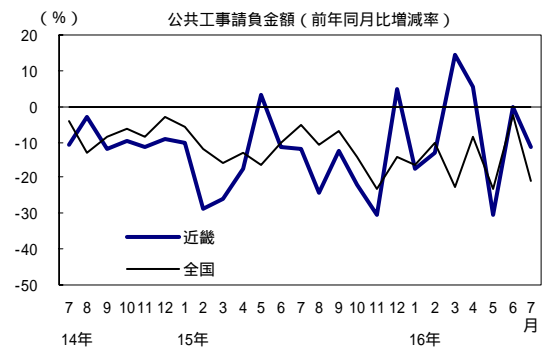
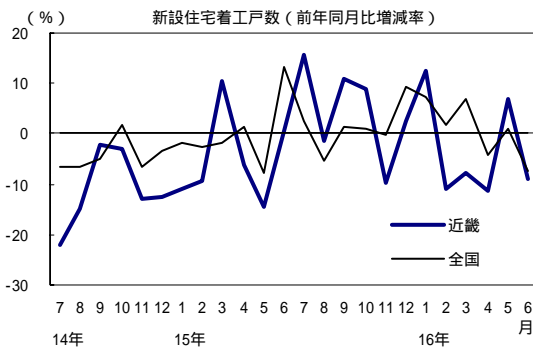
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家、分譲、持家がいずれも前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

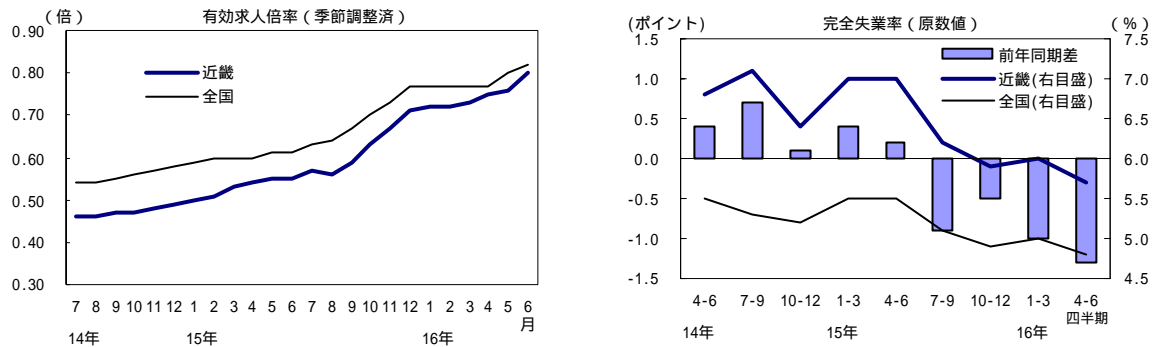


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善の動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[雇用関連 (現状判断)]

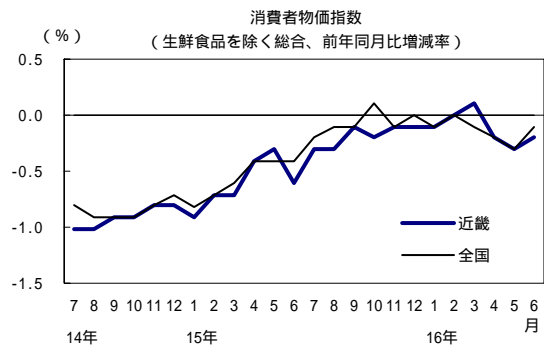
「飲食店の新規出店に関する求人や、業務請負業の大口求人が出されるなど、一部の業種に明るい兆しがみられるものの、他業種で減少傾向が続き、全体の求人数は横ばいである (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

| | (件、億円、%) | | | | |
|-------|----------|--------|---------|-------|-------|
| | 15年7-9月 | 10-12月 | 16年1-3月 | 4-6月 | 16年7月 |
| 倒産件数 | 899 | 901 | 924 | 827 | 302 |
| (前年比) | 17.1 | 12.6 | 7.5 | 17.3 | 10.7 |
| 負債総額 | 7,630 | 6,362 | 6,071 | 2,799 | 786 |
| (前年比) | 45.5 | 10.6 | 22.2 | 54.2 | 38.0 |



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

・西日本では依然として暑い夏が続いており、エアコンを中心に販売が好調である。しかしエアコンの工事については、できる限り早くできないと客が次の店に行ってしまう傾向にある (家電量販店)。

<先行き>

・7月の折込チラシが例年以上に好調だったことから見通しは明るい (新聞販売店 [広告])。

